

アダム・スミス『国富論』刊行 250 年記念特別展:ごあいさつ

経済学の祖アダム・スミスの主著『国富論』(*An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*)が 1776 年にロンドンで刊行されてから、本年度で 250 年という節目を迎えます。この記念すべき年に、当館が近年収蔵いたしました貴重な『国富論』初版(1776 年刊, 全 2 巻)を、皆様に広くお披露目できることを大変光栄に存じます。

本展示の核となる初版本 2 冊は、本学にとって極めて深いゆかりがあります。本学名誉教授であられた故・大淵利男先生(1926-2006)は、1982 年に神田神保町の書店街でこの名著を見出され、生涯大切に手元に置かれていました。先生のご逝去後、情熱の宿る 2 冊はご長男の大淵三洋国際関係学部特任教授によって同学部に寄贈され、2025 年 4 月、さらなる学術的活用のために法学部へと移管されました。大淵先生からご家族、そして法学部へと受け継がれてきたこの本は、まさに本学における経済学研究の精神的支柱とも言える存在です。

当館への移管当時、本書は経年劣化により表紙が脱落しかねない危機的な状態にありました。そこで当館は、貴重書を後世に守り伝えるため、表紙や背を取り外す「解体修理」の実施を決断いたしました。本書はまさにその修理作業の途中にあります。通常、修復を終えた本は元の姿に組み直されますが、本展示ではあえて、再製本される前の「解体された状態」のままで公開することといたしました。

今回の解体修理は、出版当時の製本技術を克明に示す、歴史的・学術的にも意義深いプロセスです。この試みにより、本来は本の中に隠されて見ることのできない「内部構造」を徹底的に観察する、千載一遇の機会が生まれました。大変デリケートな貴重書であるため、本展示はわずか 2 週間となります。しかし、この修復プロセスだからこそ視覚化できた『国富論』初版の知られざる姿を、今しか見られない文字通りの「一期一会」の形としてご覧いただけます。

本展示を通じて、スミスが紡いだ思想の重みとともに、一冊の稀覯書(きこうしょ)が繋いだ人と人、そして学問の絆を感じ取っていただければ幸いです。最後になりますが、本書の寄贈ならびに移管にご尽力いただきました大淵家、国際関係学部をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

2026 年 9 月 日本大学図書館法学部分館